

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2018/01/09

オセアニアは夏休みシーズンに

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➡	投机筋の豪ドル売りポジション膨らむ 予想レンジ: 85.500~ 90.500円	2-3
NZドル/円	➡	新政権への懸念が和らぐ 予想レンジ: 78.700~84.000円	4-5
ランド/円	➡	次期ANC党首選後は期待先行 予想レンジ: 8.600~9.300円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします

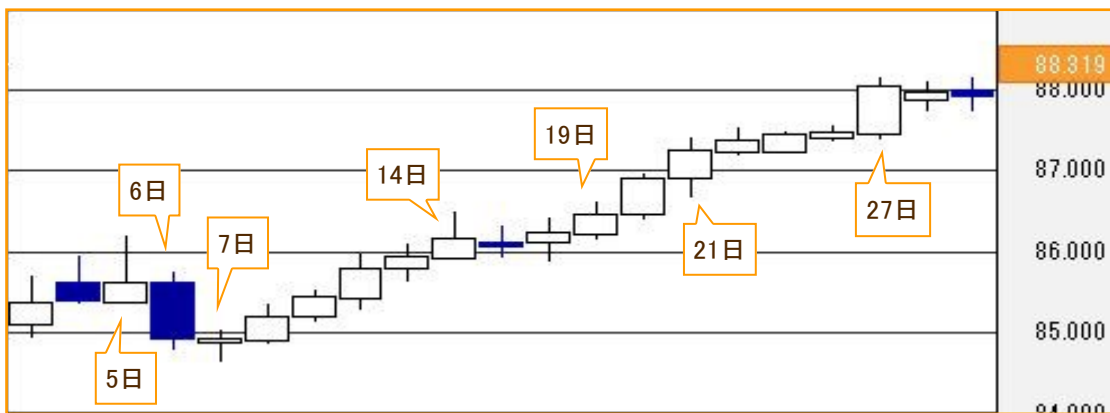


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 12月の推移

12月の豪ドル/円相場は84.658~88.163円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.3%の上昇(豪ドル高・円安)となった。豪州の主要経済指標に弱めの結果が目立った上旬こそ、豪ドル安に振れる場面もあったが、その後は一転して上昇基調となり下旬には約2カ月ぶりの高値となる88.163円まで上値を伸ばした。中国景気減速への警戒感が薄れた事や、米税制改革法案が成立した事などから国際資源価格や主要国株価が堅調に推移する中、豪ドルに買いが集まった。米連邦公開市場委員会(FOMC)の利上げ後に、出尽くし売りなどからドル安が進行した事が豪ドルを押し上げた面もあった。



四本値	
OPEN	85.118
HIGH	88.163
LOW	84.658
CLOSE	87.934

5日	豪10月小売売上高は前月比+0.5%と市場予想(+0.3%)を上回る伸びを示した。その後、豪中銀(RBA)は予想通りに政策金利の据え置き(1.50%)を発表。声明では、「政策の据え置きは、成長・インフレ目標に整合的と判断」「豪ドルの上昇は経済と物価を悪化させる」「今後数年の成長率は平均3%前後の見通し」「家計消費の見通しが不透明要因」「物価は緩やかに上昇する見通し」「労働市場改善でいずれ賃金の伸びが上向く見通し」などと慎重ながらも楽観的な見通しを示した。
6日	豪7-9月期国内総生産(GDP)が前期比+0.6%、前年比+2.8%となり、市場予想(+0.7%、+3.0%)を下回ると豪ドル売りが強まった。さらに、トランプ米大統領がエルサレムをイスラエルの首都に認定し、大使館移転のプロセスを開始すると報じられた事などを受けて日経平均株価が500円超下落する中、リスク回避の動きが強まり豪ドル売りに拍車がかかった。
7日	豪10月貿易収支が1.05億豪ドルの黒字と、市場予想(14.00億豪ドルの黒字)を大幅に下回った事を受けて豪ドル売りが強まった。その後も、中国当局が金融引き締めスタンスを打ち出すとの警戒感が広がる中、上海株が下落した事などが重なり、84.658円の安値を付けた。しかし、NY市場ではトランプ米大統領がインフラ整備計画を翌月にも発表する意向を示した事などから米国株が上昇したため豪ドルも持ち直した。
14日	豪11月雇用統計は就業者数が6.16万人増と市場予想(1.90万人増)を大幅に上回った。失業率は前月から横ばいの5.4%と予想通りであったが、労働参加率が65.5%に改善(前回65.2%、予想65.1%)した。これを受けて豪ドルが急騰したが、NY市場では、米税制改革法案の年内成立に不透明感が広がり米国株が反落したため伸び悩んだ。
19日	RBAは12月5日に行った理事会の議事録を公表。「政策据え置きは成長・インフレ目標に整合的と判断」「インフラ支出は今後3年間は予想より上回る」「失業率は引き続き低下し、インフレ上昇との見方が強まる」「労働市場は昨年よりも強く、依然としてポジティブ」「豪ドルの一段高、インフレと経済の回復予想を遅らせる可能性も」「家計のバランスシートは依然として注意が必要になる」などと、声明と同様に前向きな見方が示された。
21日	黒田日銀総裁が金融政策決定会合後の会見で現行の大規模緩和の枠組みを見直す必要はないとの考えを示した事で円安が進行。その後、原油価格の上昇を受けてエネルギー株主導でNYダウ平均が3営業日ぶりに反発する中、豪ドル買い・円売りが加速した。
27日	中国の需要増加への期待などから銅を中心に非鉄金属相場が上昇する中、資源国通貨が買われた流れに沿って豪ドル高・円安に振れた。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	22916.93
HIGH	22994.33
LOW	22119.21
CLOSE	22764.94

NYダウ平均

OPEN	24305.40
HIGH	24876.07
LOW	23921.90
CLOSE	24719.22

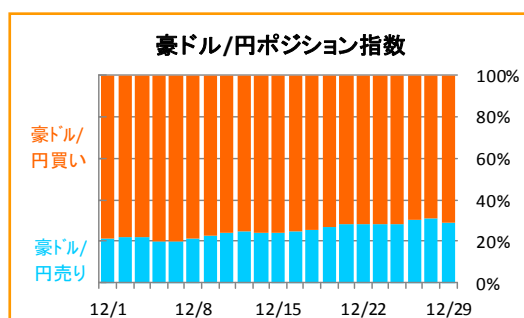
上海総合指数

OPEN	3315.105
HIGH	3324.516
LOW	3254.177
CLOSE	3307.172

豪10年債利回り

OPEN	2.530%
HIGH	2.726%
LOW	2.492%
CLOSE	2.630%

12月のポジション動向



1月の豪州・中国の注目材料

- ・12月中国財新/製造業PMI(2日)
- ・10-12月期豪消費者物価指数(31日)
- ・11月豪貿易収支(5日)
- ・11月豪住宅建設許可件数(9日)
- ・11月豪小売売上高(11日)
- ・12月中国貿易収支(12日)
- ・11月豪住宅ローン件数(17日)
- ・12月豪雇用統計(18日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

1月の見通し

南半球の豪州はこれから夏季休暇シーズンを迎える。そのため、豪中銀(RBA)の金融政策決定会合は1月には行われない。余談だが、シドニー郊外では1月7日に気温が摂氏47度まで上昇したそうだ。1月の豪ドル/円は、手掛り材料が不足しがちな中、高値圏でもみ合う事になりそうだ。豪ドルは昨年末に上昇基調を強め、1月5日には豪ドル/円が約3カ月半ぶりに89.087円まで上値を伸ばしたが、投機筋はこうした豪ドル高に対して売り向かう動きを見せている。シカゴ・マーカンタイル取引所の通貨先物市場における投機筋の豪ドルのポジション(対ドル)は、12月第3週に買い越しから売り越しに転じており、その売り越し幅は1月2日時点で約1年11カ月ぶりの水準に増加している。こうした投機筋の逆張りの豪ドル売りは、上値の重さを暗示しており、豪ドル/円が2017年高値90.312円を越えるのは容易ではないだろう。2018年のスタートと同時に上昇基調を強めた世界の株価もこのままの勢いを維持する事は考えにくい。株高基調が一服すれば豪ドル/円も調整を余儀なくされよう。ただ、投機筋の売り越しはいずれ買い戻されるとの観点に立てば、下値を支える要因にもなりうる。ポジションが売り越しに転じた86円前後では、特に買い戻しの動きが強まる可能性もある。(神田)

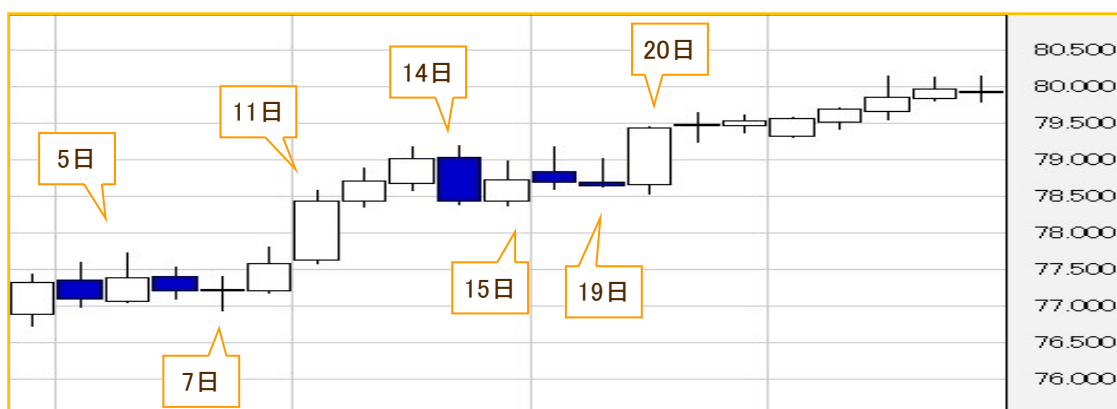
(予想レンジ: 85.500-90.500円)

NZドル/円 12月の推移

NZD/JPY

12月のNZドル/円相場は76.731～80.163円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.0%の上昇(NZドル高・円安)となった。

NZドル相場は、11月の政権交代後は下落していたが、12月に入り反発。きっかけは、NZ政府が次期NZ中銀(RBNZ)総裁を指名した事である。これにより市場の懸念が和らぎ、NZドル買いが優勢となった。米税制改革法案の年内成立を睨んで米国を中心として世界的な株高となった事も追い風となり、27日に80.10円台まで一段高となった。



四本値

OPEN	76.892
HIGH	80.163
LOW	76.731
CLOSE	79.944

5日	スペンサーRBNZ総裁代行が「インフレ率が18年後半に上向かなければ追加緩和を検討」などと発言すると、NZドル売りが優勢となった。
7日	NZ乳業大手フォンテラは、2017-18年の生産者乳価見通しについて、乳固形分1kg当たり6.40NZドルと従来(1kg当たり6.75NZドル)より引き下げた。
11日	NZ政府は次期RBNZ総裁に、過去に副総裁を務めたエイドリアン・オア氏を指名した。実績のあるエコノミストが指名されたことでNZドルが買われた。
14日	NZ財務省が半期経済財政見通しを公表し、財政黒字見通しは17年度が25億NZドル、18年度は28億NZドル、19年度は50億NZドルと、前回(29億NZドル、35億NZドル、58億NZドル)から小幅に下方修正した。
15日	ロバートソンNZ財務相が「NZドルは持続可能な水準で推移しており、一般的な上昇トレンドは『心地よい』状態にある」などと発言した事を受け、NZドル買いが優勢となった。
19日	NZ7-9月期経常収支が46.79億NZドルの赤字(予想:42.00億NZドルの赤字)となった。これに反応してNZドル売りが優勢となった。なお、NZ乳業大手フォンテラが実施した乳製品入札において、GDT指数は前回比-3.9%と1年3カ月ぶりの低水準となった。
20日	NZ7-9月期国内総生産(GDP)は前期比+0.6%、前年比+2.7%と予想(+0.6%、+2.4%)を上回るも、4-6月期(前期比:+0.8%→+1.0%、前年比:+2.5%→+2.8%)から減速した。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	22916.93
HIGH	22994.33
LOW	22119.21
CLOSE	22764.94

NYダウ平均

OPEN	24305.40
HIGH	24876.07
LOW	23921.90
CLOSE	24719.22

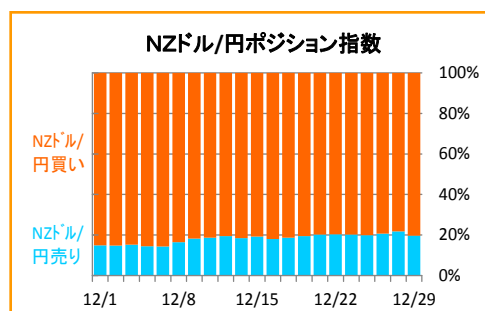
上海総合指数

OPEN	3315.105
HIGH	3324.516
LOW	3254.177
CLOSE	3307.172

NZ10年債利回り

OPEN	2.719%
HIGH	2.857%
LOW	2.704%
CLOSE	2.724%

12月のポジション動向



1月のNZの注目材料

- ・NZフォンテラ入札(2日、16日)
- ・11月NZ住宅建設許可(11日)
- ・12月NZ企業景況感(PMI、18日)
- ・10-12月期NZ生産者物価指数(24日)
- ・12月NZ貿易収支(29日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

1月の見通し

2017年のNZドル相場は、底が75-6円、天井が84円というレンジ相場であった。11月に76円ちょうど付近まで下げたが4月安値(75円台後半)を前に下げ渋ると、その後は週足で連続して陽線が出現。本稿執筆時点では7週連続陽線となっている。昨年のレンジ中間地点(79.80円前後)を突破したことで、目先的には上値が意識されやすいと見る。月足上の一目均衡表の雲上限(82.657円)を突破すると、前述のレンジ上限に向けた一段高もあるだろう。

一時期不透明感が漂っていたNZ国内情勢について、次期NZ中銀(RBNZ)総裁に副総裁を務めた経験があるオア氏を指名した事や、大衆迎合的な連立政権が誕生した事で財政悪化が懸念される中で発表されたNZの財政黒字目標が小幅な下方修正に留まった事などから、一時期悲観的に見られていたNZドルが見直されている。こうした流れが続くか、引き続きNZ新政権の対応に注目したい。(川畑)

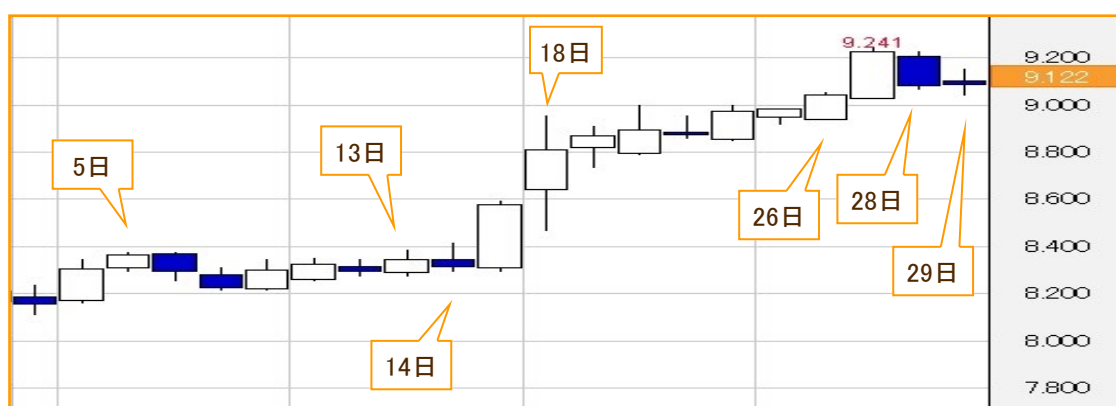
(予想レンジ: 78.700~84.000円)

ZAR/JPY

ランド/円 12月の推移

12月のランド/円相場は8.117~9.241円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約10.7%の大幅上昇(ランド高・円安)となった。

南アフリカ与党のアフリカ民族会議(ANC)党首選において、反ズマで改革路線を掲げるラマポーザ副大統領が勝利した。市場はこれを好感して、ランドは右肩上がりの展開となった。米税制改革法案の年内成立を睨んで米国を中心として世界的に株高となった事も追い風となり、27日に2015年8月以来の高値となる9.20円台まで続伸した。



四本値

OPEN	8.187
HIGH	9.241
LOW	8.117
CLOSE	9.091

5日	南ア7-9月期国内総生産(GDP)が、前期比年率+2.0%と予想(+1.7%)を上回ったほか、4-6月期分は上方修正(+2.5%→+2.8%)された。
13日	南ア11月消費者物価指数は前年比+4.6%と市場予想(+4.7%)を下回る伸びに留まった。また、南ア10月小売売上高は前月比-0.1%、前年比+3.2%と予想(+0.2%、+5.3%)を下回った。
14日	南ア7-9月期経常赤字が対国内総生産(GDP)比で2.3%と4-6月期(2.4%)からわずかに縮小した(市場予想は対GDP比2.0%)。
18日	南ア与党アフリカ民族会議(ANC)党首選において、ラマポーザ副大統領がズマ大統領の元妻であるドラミニ・ズマ氏に勝利した。汚職の一扫などを主張した改革派と目される同氏の勝利を好感してランド買いが強まった。
26日	前週23日に南ア紙が匿名関係者の報道として「ズマ大統領の早期退陣に向けた協議をクリスマス後に開始」と伝えたことに反応してランド買いが優勢となり、ランド/円は2015年10月以来となる9円台を回復した。
28日	南ア11月貿易収支は130億ランドの黒字(10月は46億ランドの黒字→43億ランドの黒字に修正)であった。
29日	南ア憲法裁判所はズマ大統領が自宅改修に公金を流用したとされる問題で、議会は責任を問えないとの判断を示した。これを受けたランド相場の反応は限定的であった。

日経平均

OPEN	22916.93
HIGH	22994.33
LOW	22119.21
CLOSE	22764.94

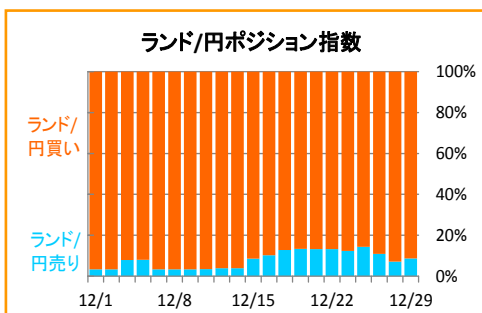
NYダウ平均

OPEN	24305.40
HIGH	24876.07
LOW	23921.90
CLOSE	24719.22

N Y 金

OPEN	1277.90
HIGH	1309.80
LOW	1238.30
CLOSE	1309.30

12月のポジション動向



1月の南アフリカの注目材料

- ・ANC全国執行委員会(10日)
- ・11月南ア小売売上高(17日)
- ・SARB政策金利発表(18日)
- ・12月南ア消費者物価指数(24日)
- ・12月南ア生産者物価指数(25日)
- ・12月南ア貿易収支(31日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

1月の見通し

2017年12月はアフリカ民族会議(ANC)党首選でのラマポーザ氏勝利による改革期待が高まったが、現状はやや期待が先行しているとする。主な理由として、(1)大統領に就任するためには2019年の総選挙にANCが勝利する必要がある、(2)ズマ現大統領の任期は2019年6月2日までであり、早期退陣の可能性が低い事、などが挙げられる。これらにより、ラマポーザ氏が早期に手腕を振るう可能性は低いだろう。2月の南ア予算案で財政改革を打ち出せなければ格付け会社ムーディーズが格下げに動く可能性が高い。したがって、今月は期待の反動に備える必要があると見る。

テクニカル面では、月足の一目均衡表の雲がポイントとなろう。昨年12月の上昇局面で上値抵抗として機能しており、今月(上限:9.386円、下限:9.050円)も上伸を阻みそうだ。仮に雲上抜けに失敗するようならば調整局面入りの可能性が出てくる。下押し目処として、17年11月安値(7.776円)～12月高値(9.241円)の上げ幅38.2%押し(8.681円)が挙げられる。(川畑)

(予想レンジ:8.600～9.300円)